

平成13年度地域目録講習会実施報告

河原田 伊左男

平成13年9月18日(火)から20日(木)までの3日間、関西大学を会場として、私立大学図書館協会と国立情報学研究所の共催により、地域目録講習会を開催した。開催に至る経緯や開催時の状況、今後に向けての課題などについて、報告する。

1 日程等

開催日時：平成13年9月18日(火)～9月20日(木)

9：30～17：00

開催会場：開講式 - 図書館ホール

講義・実習・閉講式 - 情報処理センターサテライトステーション2

2 経緯

「NACSIS地域目録講習会(図書コース)」を、私立大学図書館協会と国立情報学研究所の共催で行なうこととなり、私立大学図書館協会の前会長校であった明治大学図書館から、本学での開催の可能性について打診があった。受講希望者の多い関西地区、特に大阪での受講機会の拡大を図るためである。図書館としても、図書館ビジョン推進項目の一つである、人材育成につながりうるものであるという理解から、前向きに検討を行なうこととなった。

他の会場の募集定員は最大30人程度となっており、本学でも同程度の定員となると思われ、端末を使っただけの実習が課せられることから、図書館内での講習は難しく、調整の結果、情報処理センターのサテライトステーションを夏期休暇中に借りることが可能となった。

平成13年4月20日(金)の午後、国立情報学研究所の担当者2名が来館され、打ち合わせと、サテライトステーションの下見の結果、本学での開催が決定した。なお、次年度以降(少なくとも2～3年)も引き続き本学で開催することとなるのではないかとと思われる¹が、講習会場の借用については、夏期休暇中の開催を条件に、情報処理センターの了解を得ている。

なお、会場のサテライトステーションは2教室か

らなるが、講習会で使用した「サテライトステーション2」は、60人程度は入れる教室で、1人1台のパソコンと、2人に1台のビデオモニターがあり、教卓には、パソコンや教材提示装置だけでなく、各受講生がパソコンのどの画面を開き、どのような作業をしているかがほぼリアルタイムで分かるモニターがあることから、講習会には最適であると思われる。

3 開催日まで

夏期休暇中の開催までに図書館側で用意すべきこととして、以下のようなことがある。

- (1) 講習会で使うビデオ教材のチェック
使用するビデオテープ3本の、音声・画像に問題がないか確認しておく
- (2) 講習会で使う、受講者用講習会ホームページの編集
受講者用ホームページから、WebUIPを用いて総目録データベースにアクセスすることになっており、その他、課題の解答やコーディネグマニュアル等、講習に必要な資料は、このホームページで提供する。NIIからは、標準パターンのホームページが示され、それを、各開催校の必要に応じて編集する
- (3) 立て看板の用意
平成13年度は、図書館前、図書館ホール前、サテライトステーション前の3ヶ所に設置
- (4) 受講者座席割り当て
- (5) 講習会会場確認、機材動作確認
- (6) 配布資料の用意(テキスト、検索課題集、登録課題集、正誤表、受講者一覧、キャンパス見取り図、図書館パンフレット等)
- (7) インターネット利用のための、ゲストID、パスワードの申請

なにぶん本学での初めての開催であり、地域目録講習会を過去に受講した図書館員も、人事異動によって少なくなっているため、他大学でどのように運

営していたかを知ることができず、3日間の講習会の運営について若干の不安もあったが、その点に関しては、NII側の担当者とのメールでのやりとりや、NIIの研修事業に関するホームページからの情報により、計画を立てた。

原則として講師は、NIIで行われる「総合目録データベース実務研修」の修了者でなければならず、本学での修了者は筆者のみであるため、他大学から応援をいただいた。

4 講習期間中

(1) 開講式

地域目録講習会は、講習そのものについては、一定レベルの講習となるよう、マニュアルが用意されているが、開講式や閉講式（修了証交付）の運営については、会場校にまかされている。本学では、講習会は図書館から歩いて数分のサテライトステーションで行なったが、開講式は、図書館ホールとした。これは、学外の受講者にとっては、図書館に一旦集まっていたほうが、場所が分かりやすいからである。

通常、開講式には講師が同席するものであるが、その時間帯、サテライトステーションで、他大学からの講師のかたに機材の操作方法を伝えることとした。講師のかたとは、当日まではメールによって連絡事項を伝えるなどしていたが、本学に来ていただくのは開催当日が初めてであるため、どうしても、その時間に機材操作説明とせざるをえない。ひととおり説明が終わった頃、図書館ホールでの開講式も終わり、受講者が図書館からサテライトステーションへ移動、講習会となる。

(2) 講習

講習は、テキストによる説明と、課題集による実習からなる。午前と午後がそれぞれ一区切りとなり、3日間なので2×3の6コマとなる。講師は1人1コマを担当し、自分の担当時間外は、講師の補助として、受講者の端末操作の手伝いなどを行なう。講師補助は、受講者6人に対して1人となるように配置している。

参考までに、講習科目は、

ア 1日目午前

(ア) 目録システム概論

(イ) 目録情報の基準

イ 1日目午後

(ア) 目録検索

ウ 2日目午前

(ア) 登録総論

(イ) 登録実習（所蔵登録）

(ウ) 登録実習（書誌流用入力。参照ファイルから・階層なし）

エ 2日目午後

(ア) 登録実習（書誌流用入力。参照ファイルから・階層あり）

(イ) 登録実習（書誌流用入力。参照ファイルから・出版物理単位）

(ウ) 登録実習（総合目録データベースから）

オ 3日目午前

(ア) 登録実習（書誌新規入力）

(イ) 書誌修正

カ 3日目午後

(ア) 補講

(イ) 自由演習・まとめ

となっており、筆者は、3日目午前の、登録実習（書誌新規入力）と、書誌修正を担当した。

受講を申し込むときの前提は、ある程度目録規則の知識があることとなっている。しかし、実際には、受講者によりその知識量はさまざまであり、書誌のオリジナル作成（CREATE）作業をするのに手間取る受講者が見受けられた。NIIとしては、目録規則に関する講習会を行なうことは考えていないとのことだったが、各図書館の置かれている状況（人事異動が頻繁で、目録規則を覚える時間がない、教え教わる体制がないなど）からすると、このあたりで、こうした講習会の実施も検討すべきなのかもしれない。また、実務経験の期間にも幅があり、実務にいたばかりのかたは苦心されていたし、逆に、オペレーションに慣れている受講者は待つことが多かったようであることから、初心者向けや経験者向けといったコースを設けるのもよいかもかもしれない。

(3) 講習会中の課題

2日目午前の実習中、11時から30分間程度、総合目録データベースに接続できない状態になった。しばらくの間様子を見て、どういう状況なのか把握してから、講習をテキストの説明に切り替え、その間、筆者は、学内のネットワークの状況を確認し、NIIに問題がないかどうか電話した。原因は、NII側の機器に不具合があったため総合目録データベースに接続できなかったということで、午後からの講習に

は支障はなかったが、受講者に最終日にとったアンケートを見ていると、実習の大切さを訴えるものが多く、今回のように、ネットワーク障害があったときにどのように対処するか、その間どのように講習を進めるか、考えておく必要がある。

また、同じく2日目の昼休みに、サテライトステーションのトイレが故障し、便器から水があふれるということがあった。サテライトステーションを管轄するシステム管理課に電話連絡し、管理会社に修理を依頼、1時間半程度で利用可能になった。

トイレが詰まるというのはそうそうあることではないが、これに限らず、サテライトステーションは図書館からも、管轄のシステム管理課からも距離的に離れているため、何かあったときの連絡体制についても、開催までに確かめておかなければならない。

5 開催の意義

平成13年度の講習会会場は、11大学であった。関西地区では、本学を含め4会場となっている。受講者の選考は、新たにNACSIS-CATに接続した機関、

人事異動により、経験者が少なくなった機関、を優先しているとのことだが、関西地区は、総合目録データベースへの参加館も多く、受講希望者が多いにも関わらず、講習会を行なうことのできる施設を持つ図書館が少ない点が問題となっているということである²。講習会実施後のアンケートでも、やっ

と受講できた、今後もっと多くの図書館員が参加できるようにお願いしたい、という意見もあり、地域目録講習会の開催が強く求められていることが分かる。そういう意味で、本学で30人の定員で講習会を行なった意義は小さいものではなく、今後も図書館の体制が整う限りは、会場と講師を提供すべきであろう。

ただ、本学を会場とする場合、講師を他大学のかたにも頼まなければ開催は不可能である。先に述べたように、本学が会場校となることは、図書館ビジョン推進における人材育成にもつながるという理解からすると、何年か後には、本学図書館において講師を担える職員が増えていることを願うものである。

1

平成14年度も9月18日から20日の間、会場となることが決定している。

2

国立情報学研究所の「平成12年度研修事業実施報告」(<http://www.nii.ac.jp/hrd/HTML/Report/h12-hokoku.html>)によれば、同年度に関西地区で開催された4会場では、受講充足率(修了者が申込者に占める割合)は、1会場を除き、27.9%、32.3%、26.5%と、他地区に比べかなり低い。

(学術資料課 かわはらだ いさお)